

認定NPO法人

発達わんぱく会

すべてのこどもが、  
その子らしく  
成長できる社会へ。

認定NPO法人発達わんぱく会設立15周年記念冊子  
発達の特性を活かして、強みにできる世界を目指す、わんぱく会15年の歩みとこれから

# CONTENTS / OVERVIEW



認定NPO法人

発達わんぱく会

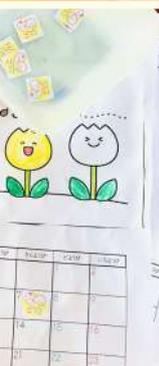
発達わんぱく会は、「すべてのこどもが、発達障害を持って生まれても、自立したその人らしい大人になって、豊かな人生を送れる社会」をつくる法人です。ビジョンの達成のため早期療育事業、開設・運営支援事業などの活動に取り組んでいます。



## CONTENTS

- P.02 — 目次
- P.04 — 発達わんぱく会15年の歩み
- P.06 — 発達わんぱく会の事業
- P.08 — 「こっこ」卒業生の声①
- P.10 — 「こっこ」卒業生の声②
- P.12 — 「こっこ」卒業生の声③
- P.14 — 伴走している企業の声 / ベトナムより
- P.15 — 伴走している企業の声 / クラ・ゼミ社
- P.16 — 継続寄付企業の声
- P.17 — 継続寄付者の声
- P.18 — 正会員の声
- P.19 — 前理事の声
- P.20 — 行政関係者の声 / 浦安市から
- P.21 — 行政関係者の声 / 江戸川区から
- P.22 — 立ち上げメンバーの声
- P.23 — 元スタッフの声①
- P.24 — 元スタッフの声②
- P.25 — 現在働いているスタッフの声①
- P.26 — 現在働いているスタッフの声②
- P.27 — 代表メッセージ
- P.28 — 2024年度実績報告
- P.30 — 寄付のお願い





## VISION

目指す社会

すべてのこどもが、発達障害を持って生まれても、自立した  
その人らしい大人になって、豊かな人生を送れる社会

## MISSION

社会的な役割

発達障害のあるこどもが、コミュニケーションの力を身につけ、  
長所を伸ばし、地域のなかで自分らしく生きていけるよう、  
家族、地域、行政のみんなで支援する



# HISTORY

## 発達わんぱく会の15年の歩み



2010.04  
法人設立準備を開始

2010.09.22  
設立認証申請書を千葉県庁に提出

2010.12.09  
NPO法人発達わんぱく会設立登記完了

2012.01  
新浦安プレ拠点で「こっこ祭り」開催

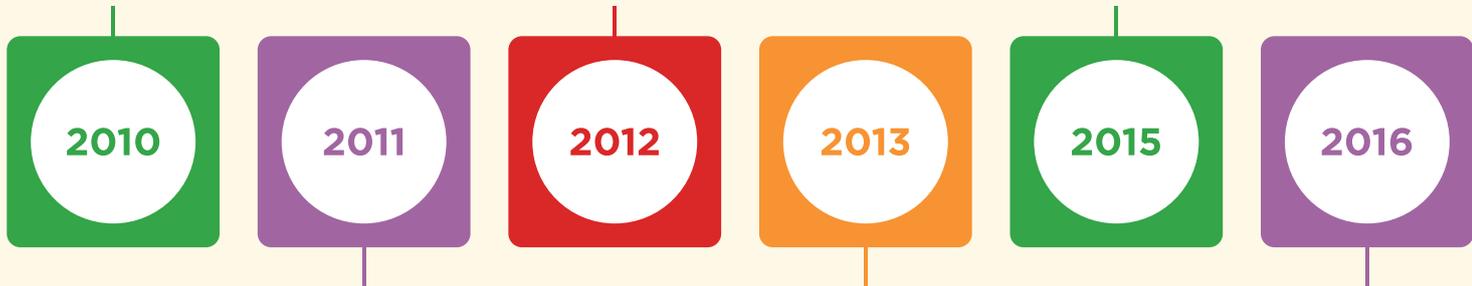
2012.04  
「こころとことばの教室こっこ 新浦安校」開校

2012.07.01  
保育所等訪問支援事業開始  
(2016年1月休止)

2015.04  
おやこっこ事業開始

2015.04  
中央区発達センター事業受託  
(2021年3月まで)

2015.04  
コンサルティング事業開始



2011.01  
音楽・造形療法ワークショップを開始以後定期開催

2011.02  
「こころとことばの教室こっこ」開所式を開催



2011.03.01  
「こころとことばの教室こっこ 東野校」開校

2011.10.01  
「こころとことばの教室こっこ」相談支援事業開始

2013.04  
「こころとことばの教室こっこ 浦安駅前校」開校

2013.04  
江戸川区巡回事業開始  
(2018年3月まで)

2013.07  
「こころとことばの教室こっこ 葛西校」開校

2016.01.20  
千葉県より特例認定NPO法人として認定(~2019年1月19日まで)

2016.03  
高槻大輔氏が理事に就任

2016.06  
「こころとことばの教室こっこ 西葛西校」開校

Thank you!

発達わんぱく会設立時期を  
支えていただいた皆様と  
設立時のこと。

設立総会の様子



2010年9月19日、浦安市総合福祉センターの一室に10名の発起人が集まり、NPO法人発達わんぱく会の設立総会が開かれました。発起のきっかけは「発達障害のある子どもが安心して暮らせる地域をつくりたい」という共通の思いでした。総会では、設立趣旨書が読み上げられ、早期療育の必要性や、地域の理解を広げる使命を確認しあいました。小さな会議室から始まったこの会は、「こどもたちの長所を伸ばし、自分らしく生きられる社会をつくる」という思いを胸に、静かな決意と温かい期待に満ちた船出となりました。

設立時理事  
本郷秀之



設立時理事  
本間郁子



設立時～現監事  
細川大輔





ベトナム事業の様子



2017.04  
新浦安校を東野校に統合。事業を再編

2022  
OYAKO BASE開始(SMBC助成)

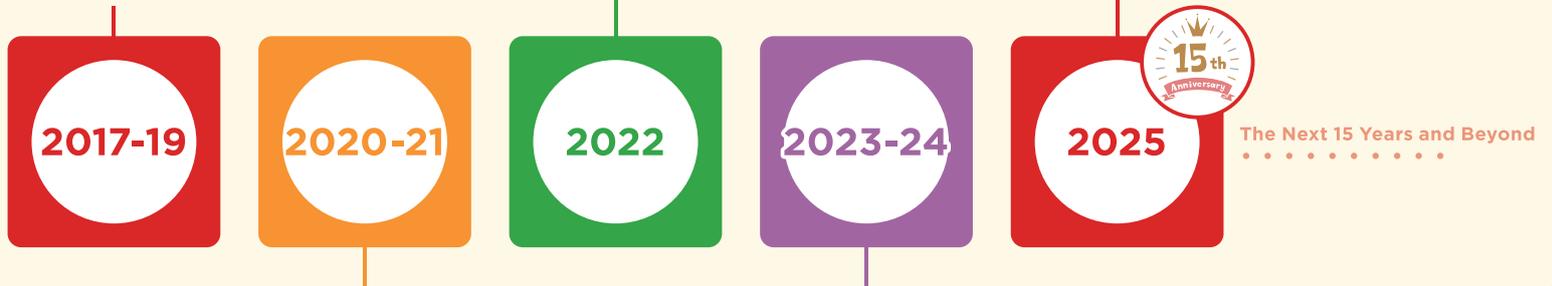
2025.01  
ベトナム事業開始

2018.11.14  
認定NPO法人として正式認定

2022  
エフバイタル社との共同研究開始

2025.05  
西葛西校が移転し「こころとことばの  
教室っこ 葛西駅前校」に名称変更

2019.04  
新しい人事制度の導入

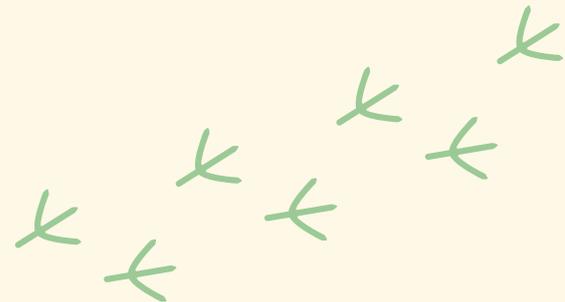


2020.05  
こっこリモート支援開始

2023.04  
成長する組織への変革を目指してみてね  
基金PJ開始(2025年3月まで)

2021  
人材育成の道しるべ「こっこの地図」の  
運用開始(休眠預金助成)

2024.05  
理事体制の変更  
本間氏・本郷氏・高槻氏が退任し、  
若林智子氏・馬場秀樹氏が就任



2018年以降事務局長体制に移行して以来、  
毎年テーマを決めてスタッフ一丸となって取り組んでいます。

●過去のテーマ一覧

- 2018：知る、伝える
- 2019：今+α
- 2020：堂々とその先へ
- 2021：ワクワク・わんぱく
- 2022：もっと、近くに
- 2023：成長と還元のぐるぐる
- 2024：聴くからはじめる心理的安全性
- 2025：ひらく、つながる、育ち会う



# SERVICE

## 全てのこどもが、その子らしく

発達わんぱく会が指針としている **3**つの軸

すべてのこどもたちがその子らしく生きられる社会をつくるために、  
発達わんぱく会は次の3つを軸に活動しています。

01

### 一人ひとりのこどもに合わせた療育

#### 児童発達支援事業

発達障害の早期発見・早期療育でこどもの長所を伸ばし、生きる力を育てる「こころとことばの教室こっこ」を運営しています。



02

### 家族に寄り添う支援

#### 相談支援事業

こどもが地域でその子らしく成長するため、こどもとその家族にあった生活の提案や相談に対応しています。



03

### 事業所・保育所の支援

#### 開設・運営支援事業

児童発達支援事業所向けに開設や運営改善のコンサルティング・保育所向けに研修を行います。



# 生きられる社会を作るために

## 主な事業①

### こころとことばの教室こっこ



こころとことばの教室こっこは、発達障害の早期発見・早期療育でこどもの長所を伸ばし生きる力を育てる教室です。

こどもたちの「こころ」と「ことば」を育てます。

「こころ」はコミュニケーションの原動力。「ことば」はコミュニケーションのツール。こころを育てることが、ことばの成長にも繋がる。「こっこ」には、こどもたちのこころとことばが育ち、その人らしく生きてほしいという願いが込められています。また、「こっこ」では、福祉サービスの利用を希望されるお子さんご家庭を対象に、サービス等利用計画の作成や受給者証取得の手続き支援、地域の情報提供などを行う相談支援事業も行っています。



#### 教室一覧

##### ● 東野校

千葉県浦安市東野1丁目4-16 メゾン町山1階店舗

##### ● 葛西校

東京都江戸川区中葛西4丁目9-18 i.eビル3階

##### ● 浦安駅前校

千葉県浦安市当代島1丁目9-25  
フラワーマンション1階

##### ● 葛西駅前校

江戸川区東葛西6丁目2-9 武企画IIビル5階

## 主な事業②

### 児童発達支援開設・運営支援コンサルティング



発達わんぱく会のコンサルティング事業では、児童発達支援事業所を新たに開設したい方や、既存事業所の運営を改善したい経営者・管理者の方を対象に、開設から運営まで一貫した支援を行っています。こころとことばの教室こっこで培ってきた療育と運営のノウハウをもとに、理念や事業計画づくり、スタッフ研修、療育プログラム・業務フローの整備などを伴走型でサポートします。これまでに北海道から九州まで約50社700事業所の開設・運営支援に携わり、各地域のニーズに合わせた事業所づくりを共に進めてきました。近くに良質な療育の場がない地域にも新たな事業所が生まれ、すべての子どもたちに早期療育の機会と質の高い支援が届くことを目指しているのが、発達わんぱく会のコンサルティング事業です。



#### 支援メニュー（一部、詳細はHPをご覧ください）

- マーケット調査
- ビジネスモデルの立案
- 事業計画の立案・資金調達
- 営業・広報活動
- 内装・レイアウト
- 採用・人員配置
- 業務フロー整備
- 帳票類の整備
- 管理者研修
- 療育者研修
- 事務スタッフ研修
- 申請書類の作成 等

# INTERVIEW

息子の行動の理由が  
分かるようになった。  
笑顔が増え、  
親子で成長できた場所。

楠本 衣利加さん  
楠本 篤仁さん

## ● こっこを利用して

こっこに通い始めて、息子の行動の裏側にある理由について、親として深く考えることができるようになりました。なぜそういう行動をするのか、その背景を理解しようとする視点を持たたことは大きな変化でした。以前は息子の行動に戸惑うことも多く、どう接すればいいのか悩むこともありましたが、こっこでの学びを通じて、息子の気持ちに寄り添う姿勢を持つようになりました。親向けのリモートプログラムもとても参考になり、日々の関わり方のヒントをいただきました。そして何より、こっこさんに通う前より息子の笑顔が増えたと感じています。

## ● こっこのここが良かった

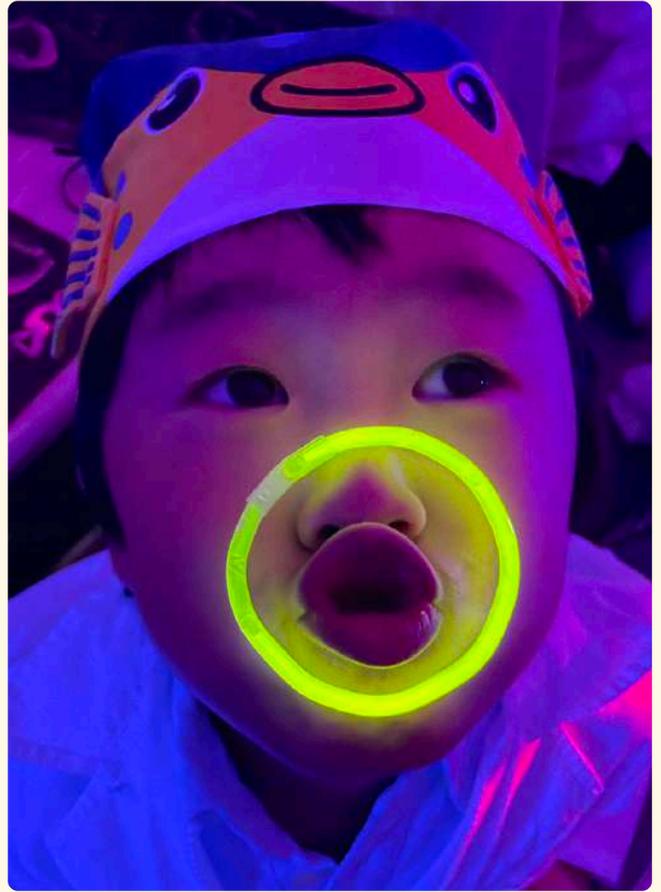
いつもこどもだけでなく私たち親も肯定してくださって、寄り添っていただいたことが何より心強かったです。息子は気持ちの折り合いをつけるのが難しい時期がありましたが、本人がこっこさんに行くことを楽しみにしていたので、無理なく通うことができました。スタッフの皆さんが温かく受け止めてくださる雰囲気の中で、息子は安心して過ごせていました。療育を始める頃は見えない不安にたくさん悩みましたが、こどもを信じて家族みんなが笑顔でいることが大切だと感じています。焦らず一歩ずつ進んでいってください。

## ● こっこ卒業後のお子さんのようす

昆虫に夢中で、虫に出会うとすぐに立ち止まって観察しています。大人よりも詳しいので教えてもらうことが多いです。絵や工作、折り紙も変わらず好きで、家ではいつも何かを作っています。集中すると周りの声は届きませんが、好きなことに没頭できる姿を見守っています。対人関係などで心が折れることもあります。ひとつひとつ一緒に頑張っ乗り越えています。こっこで培った経験が今も息子を支えてくれていると感じます。

## ● お子さんの声

小学2年生になった息子にもインタビューしてみました。印象に残っていることを聞くと「ランドセルを作ったこと」「スライムを作ったのが楽しかった」と教えてくれました。そして「道徳がうまくなった」「いつもの自分の生活が振り返れた」と、自分なりに成長を感じているようで嬉しく思いました。最後に息子からこっこへのメッセージを聞くと「これからいろいろな人に、がんばって、べんきょうやあそびをおしえてあげてください!」と応援の言葉を送ってくれました。親子ともに、こっこでの時間に心から感謝しています。



# INTERVIEW



娘のことも、私のことも

決して否定しない。

安心して話せる場所で

親子ともに成長できた。

清水 亜矢さん

清水 絵梨さん

## ● こっこの印象に残っていること

初めて見学したのは、娘がまだ1歳になる前でした。ドキドキしながら伺いましたが、スタッフの皆さんが温かく迎えてくださり安心したのを覚えています。個別療育で「入口弁別」という課題に取り組んだ時のことが特に印象に残っています。正直「この子には無理そうだな…」と思っていたのですが、なんとできてしまったのです。その瞬間、娘の可能性を信じることの大切さを強く感じました。それまで親である私が無意識のうちに娘の可能性に限界を設けていたことに気づき、考え方が大きく変わりました。こどもは親が思っている以上の力を持っていると実感しました。

## ● こっこのここが良かった

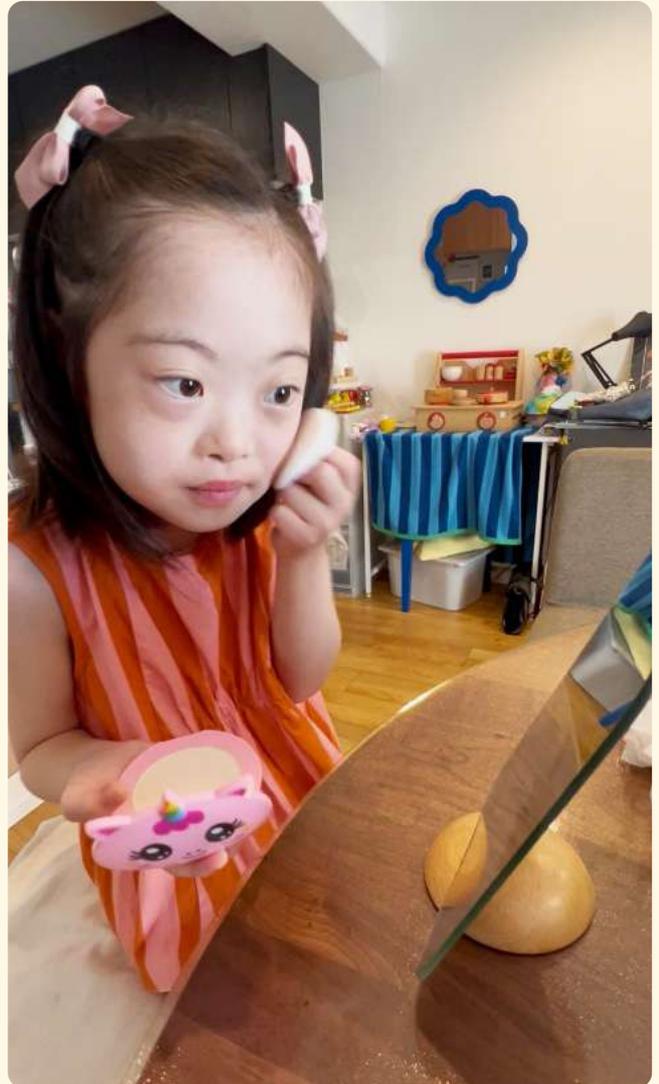
スタッフの皆さんが、娘のことも私のことも決して否定せず、どんな時も共感してくださったことです。うまくいかない時も、いつも寄り添って話を聞いてくださり、一緒に解決策を考えてくださいました。安心してなんでも話せる場所であり、親子ともに成長できる場所だったと思います。初めて通うときは不安も多いと思いますが、こっこは必ずその不安を包み込んでくれる場所です。こどもの小さな「できた!」と一緒に喜び、親自身も前向きになれる時間を過ごせると思います。どうか焦らず、お子さんを信じて、たくさんの「うれしい瞬間」を積み重ねていってください。

## ● 卒室後のお子さんのようす

卒室するときは本当に寂しかったですが、こっこでの経験が自信につながり、今は元気に小学校に通っています。漢字が好きで2年生のときに漢検に一発合格し、本人も大きな自信を得たようです。興味の幅も広がり、今夢中になっていることはお菓子づくりやお化粧です。いつもすごい顔になっていますが、楽しそうに取り組む姿を見るのが嬉しいです。こっこで培った「できた!」という成功体験が、新しいことにも積極的に挑戦する力になっていると感じます。今年の9月9日には9歳になりました。これからも娘らしく、のびのびと成長して行ってほしいと願っています。

## ● こっこでの日々とこれからへの願い

こっこでは個別療育のほか、「おやこっこ」や「おといろ」にも参加し、多いときは週3日お世話になっていました。娘は半分こっこに育ててもらったようなもので、娘の半分はこっこでできたといっても過言ではありません。スタッフの皆さんの温かい関わりや他の親子との交流を通じて、娘も私も多くを学び成長できました。こっこでの時間は私たち親子にとってかけがえない宝物です。卒業してすぐ、こっこのお友達と遊んだ時の娘の嬉しそうな顔が忘れられません。本当にありがとうございました。これからも多くの親子に、あの温かい時間が届きますように。



# INTERVIEW

大泣きしていた2歳から、  
委員会に張り切る4年生へ。  
一年ごとに見えた  
ぐっと成長した姿。



小澤 亜希子さん  
小澤 理矩さん

## ● こっこの印象に残っていること

こっこを利用し始めたのは2歳をすぎた頃でした。その頃は母が少しでも離れたり他の人と話すだけで大泣きをしていました。色や順番に対するこだわりが強く、小集団でも皆と行動することが難しかったです。集団療育と個別療育の両方を利用し、遊びながらルールを学んだり、癇癪を起こした時に先生が1対1で気持ちを聞いてくださり、息子の主張を踏まえた対応を重ねていくうちに、こだわりは持ちながらも「こっちもいいね」という柔軟な考え方が身につきました。活動を通して、次に何をするか、何が起こるかなどの見通しをつけられるようにもなりました。

## ● こっこのここが良かった

母である私も、息子にどう接するのが正解なのか、この先どうしていったらいいのか分からず苦しかったのですが、毎週こっこで先生たちの声かけや遊び方を見てそれを参考にしたり、悩んだ時には皆さんに話を聞いてもらい何とか辛い時期を乗り切ることができました。雰囲気は温かいのが1番好きなところですが、療育の時間は、こどもたちの細かな言動に気を配ってくださるので、最初は嫌がっていた活動もいつの間にか楽しい!に変えてくれるところが見ていて嬉しかったです。また、こどもたちの気持ちや主張を聞き出すのがとても上手で、勉強になりました。

## ● これから通う親子に伝えたいこと

迷ったり悩んだりこどものためにどうしたらよいのか戸惑うこともあると思います。私はこっこに通い始めてから、1人で抱え込んで悩まなくていいんだと思えるようになりました。こっこのスタッフの皆さんは、いつもこどもにとってよい環境を考えてくださいます。それと同じくらい親のことも考えて寄り添ってくださいます。一年後、二年後、三年後には、ぐっと成長したこどもの姿を見ることが出来ますよ!安心して、お子さんと一緒に一歩を踏み出してください。

## ● こっこ卒業後のお子さんの様子

就学前は支援級か通常級かとても迷いましたが、通常級に在籍しながら通級に通っています。1年生の頃は癇癪もあり学校が苦手でしたが、4年生の今は、波がありながらも委員会や当番活動に張り切って参加できるようになりました。週2日、放課後等デイサービスに通っています。夢は鉄道会社をやることで、毎日マイクラフトというゲーム内で街を作ってイメージを膨らませています。今でもたまに、こっこに通いたいと言っています。息子にとっても私にとっても、こっこでの時間は濃く思い出に残っています。こっこがあっけよかったです!



日本からベトナムへ。  
知識と支援の架け橋が  
自閉症児とその家族の  
未来を拓く。

チャン ヴァン アイン  
Tran Van Anhさん



## ● わんぱく会との出会い

発達わんぱく会様には、自閉症児を持つ一人の親として、またAme Houseプロジェクトの立ち上げ当初から、知識面・精神面で多大なるご支援をいただいております。プロジェクトを通じて日本とベトナムの架け橋となり、自閉症児とその家族への支援の輪を広げていく活動を続けています。わんぱく会様のご支援なくしては、今日の活動はありませんでした。専門的な知識や実践的なトレーニングの機会を提供していただき、私自身もチームの教師陣も大きく成長することができました。心から感謝しております。

## ● わんぱく会らしさ

プロジェクトを立ち上げた当初は、私自身が自閉症児の親であるという経験しかなく、専門的な知識もなかったため、非常に不安でいっぱいでした。しかし、わんぱく会の皆様にお会いし、力強いサポートをいただくと確信できたことで、これからの活動を安心して進めていける勇気と自信を持つことができました。特に、私自身や私のチームの教師陣に対して、自閉症スペクトラム障害に関する知識や専門的トレーニングを熱心にサポートし、力を与えてくださったことが、今でも強く心に残っています。この熱意こそが「わんぱく会らしさ」だと感じています。

## ● 今後への期待

今後も、日本からベトナムへ、より多くの有益な知識を共有し、トレーニングの機会を提供していただきたいと期待しています。特に、自閉症児を持つ保護者に向けて、知識向上と実践的支援につながるトレーニングプログラムを強化していきたいと考えています。また、両国間の人材育成分野での協力プロジェクトをさらに多く企画し、実現したいです。これにより、私のところの教師たちが引き続き日本へ渡航し、現地の教育を直接体験し、見学・学習する機会を得られることを心から願っています。



学びと教える立場として。  
補完的に協力し合い、  
より良い教育サービスを  
共に目指す。

## 倉橋 義郎さん

### ● わんぱく会との出会い

小田さんが事業を開始した当初から、彼の潜在能力を認識しておりました。当時、私自身は学習塾の経営に限界を感じていた時期でもあり、小田さんの新しい事業モデルに大きな可能性を感じていました。その後、事業が急速に成長し、正直驚きました。実際に事業を視察させていただいた際、自身の事業スタイルと類似している部分も多く、教育事業における対面方式の重要性という点で共通の価値観を持っていることを実感しました。最初の事業所名「こころとことばの教室あいあい」をめぐる議論も、今となっては良い思い出です。

### ● 印象的なエピソード

小田さんの事業が急成長していく過程を間近で見ましたが、その中でも特に印象的だったのは、彼が一貫して対面での教育を重視し続けてきた姿勢です。教育事業において、人と人が直接向き合うことの価値を大切にする点で、私たちは同じ考えを共有していました。効率化やオンライン化が進む時代の流れの中でも、目の前の子どもたち一人ひとりと真剣に向き合い、その成長を直接見守ることの重要性を、小田さんは決して見失いませんでした。また、専門性に偏りすぎず、より広範囲に開かれた教育モデルを追求する姿勢にも深く共感しています。

専門的な知識や技術は確かに重要ですが、それが一般の保護者や子どもたちから遠い存在になってしまっては本末転倒です。大衆から乖離しない、誰にでも分かりやすく、そして実際に役立つアプローチを追求することの重要性を、わんぱく会は常に意識されていると感じます。

わんぱく会が地域に根ざし、保護者と一緒に子どもたちの成長を喜び合う姿勢は、専門性を持ちながらも、決して上から目線にならず、家族に寄り添う温かさを持ち続けています。この姿勢こそが「わんぱく会らしさ」だと思います。

### ● 今後の期待

発達わんぱく会に対しては、学びと教える立場として位置づけています。私たちクラ・ゼミとわんぱく会が、それぞれの強みを活かしながら補完的に協力し合うことで、より良い教育サービスを提供できると考えています。専門性に偏りすぎず、大衆に適した正しいアプローチを追求することが重要です。今後も両組織が互いに学び合い、より広範囲に開かれた教育モデルを目指していきたいと思います。相互の信頼と尊敬に基づき、教育事業における革新的なアプローチを共有しながら、協力関係を継続していくことを期待しております。

一度きりではなく、  
継続的な支援を。  
単なる寄付ではなく、  
共に歩む関係へ。



丸和バイオケミカル株式会社



## 丸和バイオケミカル 社会貢献プロジェクト

清水 啓さん

### ● わんぱく会との出会い

2003年、「地域社会への貢献」を理念に社会貢献委員会が発足し、現在は社員主体のプロジェクトとして活動が行われています。支援先は社内公募で推薦された団体を選定し、社員の総意として決定します。『発達わんぱく会』も活動を知る社員から推薦があり、その理念や取り組みに深く共感しました。こどもたちの成長を支える姿勢に感銘を受け、私たちもその一助となりたいと考え、支援を開始しました。この出会いは、企業としての社会的責任を改めて実感するきっかけとなりました。

### ● 継続支援の理由

一度きりの支援では、できることは限られます。そこで私たちは、複数年にわたる継続支援を基本方針としています。わんぱく会への支援は「もっとこどもたちの力になりたい」という思いから、現在は『コア団体』として長期的な支援が出来るように体制を整えています。最近では、社員向け広報誌で小田理事長のインタビューを掲載し、2025年10月の全社会議では理事長に特別講演をお願いしました。こうした双方向の交流が生まれ、支援が単なる寄付ではなく、共に歩む関係へと発展していることを嬉しく感じています。

### ● メッセージ

設立15周年、療育を受けるこどもたちに寄り添い、家族の笑顔も増やしてきた活動に心から敬意を表します。私たちの支援は小さなものかもしれませんが、小田理事長をはじめスタッフの皆さんが何倍にも大きくしてこどもたちに還元して下さることに感謝しています。これからも継続的な支援を続けられるよう、企業活動に励みます。わんぱく会がさらに発展し、笑顔のこどもたちが増えることを心から願っています。





自身も発達障害の特性を抱えていたからこそ、  
もっと生きやすい  
子どもたちを増やしたい。

関田 裕介さん

## ● 寄付のきっかけ

私は発達障害の特性を抱えて育ちました。幼少期は親や先生に「ちゃんとしなさい」と叱られることが多く、どこにも居場所が無いような気持ちで過ごしていました。大人になってから自分が発達障害だと知ったとき、「療育や保護者への教育などの支援があれば、自分はずっと生きやすかったかもしれない」と思いました。発達わんぱく会の活動を知ったとき、今まさに支援が必要な子どもたちに自分に関われるのではないかと、寄付という形で支援を始めました。

## ● 寄付を通じて感じること

大人になってから自分と向き合う時間を確保するのはとても難しいです。しかし、幼少期から「自分の感じ方や考え方には理由がある」「困ったときに助けを求めている」と学べることは、その後の人生で大きな財産になると思います。私は自分の経験を通じて、もっと早い段階でこうした支援に出会えていたら、人生の苦しさが違っていただろうと思います。だからこそ、今まさに支援が必要な子どもたちに、自分が少しでも関われることを嬉しく感じています。

## ● 子どもたちへのメッセージ

私が子どもたちに伝えたい事は「あなたも、あなたの周りの人もみんな特別で大事な存在なんだ」ということです。だから自分をダメなやつだと思わないでほしいし、周りの人も大事にしてほしいと思います。そのために出来ることは難しいことではありません。困っている人を見かけたら、手伝ってあげる。元気がない人がいたら、大丈夫?と声をかけてあげる。そんな小さなことで良いので、自分も人も大事にする気持ちを持ってほしいです。



仕事のご縁が、  
新しい活動へ。  
外部の視点から  
わんぱく会を応援したい。



松本 ゆみこさん

## ● わんぱく会との出会い

わんぱく会との出会いは、小田さんと前職でご一緒させていただいていたご縁がきっかけでした。その繋がりにから正会員としてお声がけいただき、今日に至っております。仕事を通じて築いた人間関係が、このような形で新たな活動へと広がっていったことを、とても嬉しく感じています。わんぱく会の活動理念や取り組みに共感し、微力ながらも関わらせていただけることに感謝しております。異なる業界で働く立場から、何かお役に立てることがあればと考えています。

## ● 「わんぱく会らしさ」について

特に印象に残っているのは、教室見学の後にスタッフの皆さんの食事会に同席させていただいた時のことです。普段、教室や本部で働くスタッフの方々と直接お話しする機会は限られているため、わんぱく会の温かい雰囲気を感じられる貴重な時間となりました。また、オンラインで研修講師としての機会をいただいたことも、忘れられない経験です。外部の立場から関わらせていただくことで、わんぱく会が大切にしている価値観や、スタッフ同士の信頼関係の深さを実感することができました。こうした何気ない交流の中にこそ、わんぱく会らしさが表れていると感じています。

## ● メッセージ

法人として一定の一貫性を保つことは必要だと思いますが、同時に、スタッフの皆さんが「やってみたい」と思う療育や業務改善のアイデアが自然に生まれ、それを実践できる組織であってほしいと願っています。現場の創意工夫を大切に、柔軟に挑戦できる風土こそが、わんぱく会の強みであり続けると信じています。こどもたちや保護者の方々により良い支援を届けるためには、スタッフ一人ひとりが主体的に考え、行動できる環境が不可欠です。今後も末永く活動が続き、さらに多くの家族に寄り添える存在であり続けることを、心より応援しております。





寄付のその先へ。  
成果連動×伴走支援で、  
こども一人ひとりに  
フィットする支援を。

高槻 大輔さん

## ● なぜソーシャル系事業に？

民間投資の現場で二十年、再現性ある価値向上とガバナンスに携わる一方で、資本の論理だけでは届かない領域があると痛感しました。こども・福祉・教育は、成果が複層で時間遅延も長い。ここでは「現場の知を仕組みに翻訳する力」と「持続的な資金循環」、そして「人の成長を伴走する時間」が同時に要ります。官民・国際協力の経験を束ね、寄付と投資の間にある第三の選択肢を設計し、成果連動・人材育成・組織伴走を一体で実装する。解決のスピードと品質を両立させるため、私はソーシャル事業に積極関与しています。

## ● わんぱく会の可能性

わんぱく会の強みは、理念で終わらず「個別最適の支援→家族・地域・行政との協働→運用の標準化」へ落とし込む実装力です。次の一手は三つ。第一に、拠点横断のオペレーション設計（評価基準、研修、SV、QA）。第二に、データとストーリーの統合可視化（早期発見から就学移行までの一貫KPIと事例）。第三に、継続寄付と協働資金のポートフォリオ化。これらを回せば、品質監査を担保しつつ地域横断でスケールできる。“療育は特別”という敷居を下げ、地域の標準へ転換する潜在力があります。

## ● メッセージ

社会課題は、想いだけでも効率だけでも前に進みません。現場から学び、仕組みで広げ、資金で支える、この三位一体を誠実に回し続けることが近道です。わんぱく会の十五年は、その実証です。支援者の皆さまには、月々の継続寄付で“時間”をともに積み上げていただきたい。企業・行政には、データ連携と人材育成で“標準化”に参加してほしい。私は官民連携と経営伴走の経験で、実装を後押しします。すべてのこどもが“その子らしく”生きられる社会を、合意と仕組みで現実にしていけることを願っています。



こどもを真ん中に置く文化が

広がっている

浦安の児童発達支援、

変化の15年



藤田 美葉さん

## ● わんぱく会との出会い

私が小田さんと出会ったのは、わんぱく会が立ち上がる前のことです。

当時、小田さんが「こどもの発達センターで研修や実習をさせてほしい」と申し出てこられました。センター長も「こんな申し入れは初めてだ」と驚いていましたが、「まずはお話を聞いてみましょう」となり、お会いすることにしました。

実際にお話してみると、浦安市で児童発達支援事業所を立ち上げたいという熱い思いを持っておられて、まだ経験がないから1年間学ばせてほしいという真摯な申し出でした。

当時は市内に児童発達支援事業所が数えるほどしかなく、センターも常に満杯の状態でした。それでも「新しい事業所が生まれるのは良いことだ」と、私たちは小田さんの研修を受け入れることにしました。

今思えば、あの時センターの門を叩いてくださったのが、すべての始まりでした。

## ● 「こころとことばの教室こっこ」の印象

「こっこ」の立ち上げ時、まず驚いたのは“ハードルの低さ”でした。

「無料で遊びに来ていいですよ」という姿勢がとても新鮮で、「今困っている保護者が気軽に相談できる場」を作っていることが本当に素晴らしいと思いました。

今でこそ児発の数も増え、利用しやすくなりましたが、当時からわんぱく会は“開かれた場所”であり続けています。

## ● 浦安市のこども支援のこれから

これからの浦安には、就学後の支援がより丁寧に考えられるようになってほしいと思います。

未就学の段階では多くの事業所がサポートしていますが、小学校・中学校に進学した後、支援が途切れてしまうことがあります。

特に普通級に通うお子さんへの支援や、クラスの人数・環境の整え方など、市として考えていく必要があると思います。

「どんな学校でも、安心して通えるように」

そのためには、先生方がこどもを理解し、保護者と連携できる仕組みづくりが大切です。

最近は先生方の理解も少しずつ広がってきていますし、民間保育園の受け入れも柔軟になってきています。

15年前に比べると、確実に“こどもを真ん中に置く文化”が広がっていると感じます。

## ● わんぱく会への期待

これからも、浦安市全体のこどもたちの未来を見据えた活動を一緒に進めていきたいです。

制度にただ乗るのではなく、「理念から地域をつくる」視点を共有したい。

そして、どんなこどもも、どんな家庭も、

「この街で安心して育てていける」と思えるような環境を、少しずつ広げていきたいですね。

手探りの状況から始まった  
江戸川区の支援体制づくり。  
「こっこ」との出会いが  
道を拓いてくれた。

河本 豊美さん

## ● わんぱく会との出会い

江戸川区では平成23年4月に発達障害調整係が設置され、ライフステージによる切れ目のない支援を目指して、私は係長として着任しました。私と保健師や福祉職の4名という小さな係でスタートし、当時、区内には児童発達支援事業所も数少なく、他自治体の事業所の視察やシンポジウムに参加するなど、江戸川区の支援体制をどのように充実させていくか手探りの状況でした。そのような中で、発達わんぱく会との出会いがありました。

## ● 印象に残っているシーン

手探りの状況の中、小田理事長が運営する「こっこ」での療育の様子を視察させていただいたことが強く印象に残っています。明るい教室と個別療育の方法など、児童発達支援事業の在り方の基礎となる情報を丁寧に教えていただきました。また、支援者を支援するための乳幼児施設等巡回支援事業にもご尽力をいただき、事業を開始することができました。現在は区内に「こっこ葛西校」「こっこ葛西駅前校」があり、小田理事長の豊富な知識と経験、幅広いつながり、爽やかな笑顔と前向きなお人柄に力をいただいております。

## ● メッセージ

江戸川区では、早期発見・早期療育の重要性から、地域支援や支援者支援を充実させるため、令和8年4月には児童発達支援センターが4か所となります。これからは発達わんぱく会様と連携を図り、大切な幼児期に適切な支援を受けることで、こどもたちの笑顔が増え、成長していくことを期待しています。開設や運営支援の取り組みは療育の質の向上に大きく寄与されており、今後も江戸川区の支援体制の充実に向けて共に歩んでいきたいと考えております。貴会の益々のご発展と15周年を迎えられましたこと心からお祝い申し上げます。



やってみる 反応がある 面白い  
誰にもジャッジされない  
安心できるコミュニティー

灘田 篤子さん

## ● 音と色の療育

1枠45分を最初の30分音楽、その後15分アート（この間メインセラピストが保護者の方とグループセッション）という形にしたのは、療育者と保護者が協働関係にあることが子どもの利益に直結するというデータと経験に基づいたものでした。

私の音色クラスでは、子どもにこちらがやって欲しいことを“やらせる”のではなく、“やってみずいられない”“こうやったらどうなるかな？”という好奇心があふれてくる環境や関わりを通して、子ども達の主体的な行動を育み伸ばす、というアプローチでした。

彼らが音楽を場を導いていくのです。見逃しがちな子どもの身ぶりや目線の動き、声や音のニュアンスなどに意味を見出し、療育の目的に即して呼応し、感情を通わせる中で特別な信頼関係が築かれていきました。生きることの喜びや充実感が詰まったセッションは、彼らの日常のインスピレーションにもなりました。

## ● ぱくぱく会・アートセラピー

月一回の、子ども達が療育者と一緒に様々な感触の食材を触り、切り、匂い、湯気や炎の熱を感じならみんな調理して食べる食育クラスの名前は、ぱくぱく会。食に関して相談を受ける中で始めたクラスです。

裏方で動いてくださったスタッフも含め、準備も片付けも、他のプログラムとは一味違うものがありました。毎回保護者の方のお持ち帰り分とスタッフの賄い分もカバーする量を作り、“同じ釜の飯”を囲み、普段と違う会話や学びが生まれたユニークなクラスでした。また、保護者の方のセルフケアと育児支援を目的とした絵本づくりシリーズでは、私たちと同じように人生に立ち向かう多様な主人公達の姿や言葉に励まされました。

## ● メッセージ

私たちは宗教、社会、文化、時代など、個を超え引き継がれてきた価値観をお腹の中にいる時から無意識に浴びています。時にそれらは辛い時の心の拠り所になり、時にそれらは自分らしく生きようとする内なるフォースを根本から否定する暴力的なものでもありえます。非言語で、象徴的、多層的で、創造的でもありうる音楽やアートを通して、誰にも指示されない、批判されない、安全な空間とセラピストとの関係の中で、今だ出会ったことがない“自分の感情”と対話することで、想像もしなかった人生の風景が開けていきます。こっかがこれからも地域社会、お子様方、ご家族方々と共に歩み、療育の第一線を牽引されていかれることを心から応援しています。



こどもたちと過ごした  
短くて、長い時間。  
その経験が、  
今も私を支えている。

魏 孝棟さん

## ● わんぱく会との出会い

私は短期間ではありますが、スタッフの一員としてこどもたちの成長を共に見守りました。この現場経験は、その後の仕事の節々で思い出す大切な学びとなっています。遊びや関わりの一つひとつに意図があり、保護者との対話が丁寧に積み重ねられていく。支援の中心に「その子らしさ」を据える姿勢と、チームとして迷いを言語化し合う文化は、私にとって強い印象として残りました。こども・保護者・スタッフが同じ温度で喜びを共有する、その一体感こそ、わんぱく会で得た何よりの財産です。

## ● 印象に残っているシーン

忘れられないのは、ある子が初めて「できた!」と笑顔を見せた瞬間です。スタッフだけでなく、そばで見守っていた保護者も同時に顔をほころばせ、場の空気が一気に明るくほだけました。遊びや日常の動作に小さな目標を埋め込み、達成を過度に演出せず自然な形で積み上げていく。こどもは自信を、保護者は安心を、スタッフは確かな手応えを得る、この好循環をつくる「目配り」と「声かけ」の設計が、わんぱく会らしさだと感じます。成長の芽を見逃さず、みんなで喜び合える場づくりが印象的でした。

## ● メッセージ

わんぱく会には、これからも地域において「こどもと家族に寄り添う場」として、多くの方々に愛され続ける存在であってほしいと願っています。時代や社会が変化する中でも、こどもたちの成長を第一に考え、保護者が安心して相談できる場であり続けることは、地域にとってかけがえのない価値だと思います。私自身、わずかな期間でしたが関わらせていただいたことを大変ありがたく感じており、その経験が今も私を支えてくれています。今後もわんぱく会が地域の中で発展し、さらに多くの家族に温かい支援を届けられることを、心より応援しております。





6年間の学びが、  
今の私の土台に。  
スタッフから独立へ、  
支え続けてくれた存在。

渡辺 麻子さん

## ● わんぱく会から、自身の事業に

わんぱく会には元スタッフとして約6年間勤務し、こどもたちの発達支援に携わる中で多くの学びを得ました。2016年に「ぷりずむ」を立ち上げる際には、小田さんにコンサルティングでお世話になり、開設準備から運営まで丁寧にサポートしていただきました。現在も事業所の運営について時折ご相談させていただいており、わんぱく会とのつながりは私にとってかけがえのないものです。スタッフとして学んだ経験と開設時の支援が、今の私の活動の土台になっています。

## ● メッセージ

地域に根差した温かみのある「わんぱく会らしさ」を大切にしながら、これまでと変わらず専門性の高い療育を提供し続けていただきたいと願っています。長年培ってきた知見と経験を活かしつつ、時代のニーズに応じた新しい支援の形も模索していかれることと思います。小田さんを中心に、わんぱく会の新たな挑戦や活動の輪がさらに広がっていくことを心より期待しております。これからも地域のこどもたちと家族にとって、信頼できる支援の場であり続けてください。

## ● 「わんぱく会らしさ」について

わんぱく会は、福祉関係の方々や団体、企業とのつながりを大切にしながら、イベントや講演会を精力的に開催されています。小田さんの情報収集力と行動力、そしてそれを実現に結びつける力には本当に感銘を受けます。地域に根ざした児童発達支援の老舗として、様々な専門職のスタッフが活躍しているのも特徴です。私もスタッフ時代には、こどもたちの発達や療育、保護者対応など多くを学ばせていただきました。事業所立ち上げ時には、必要な段取りや細かな情報まで親身に教えていただき、安心して準備できました。熱意をもって事業所を立ち上げたい方にとって、心強い存在だと思います。





右も左も分からなかった  
あの頃から今まで。  
継続することの大変さと  
感謝を胸に、これからも。

**宮本 かおりさん**

### ● 印象に残るエピソード

児童発達支援や療育の右も左も分からず、ただがむしゃらに目の前の親子の対応をしていた初期時代を、最近をよく思い出します。当時は諸々のことが今と比べると全く整っていませんでしたが、初期からずっと「わんぱく会さん、こっこさんはすごい」と言われ続けているのは、一人ひとりのスタッフが誠実に取り組んできた証なのだろうと実感します。出会ってきたたくさんの親子やスタッフ、地域の方々が支えてくださったからこそだと感謝しています。継続することの大変さを感じながらも、それがわんぱく会の使命だと信じ、日々頑張ろうと思います。

### ● わんぱく会らしさとは？

卒業生の送り出し、新年度の準備と多忙を極める年度末の2～3月。毎年膨大な業務量を前に茫然としながらも、「スタッフみんないつでも真摯に全力」と誇らしく思う時期でもあります。こっこの教室では連日卒業生の修了式が行われ、保護者の皆さまとお子さまの成長を喜び合ったり泣いたり笑ったりしています。一人ひとりと全力で向き合う姿勢がそこにはあります。心身共に振れ幅の大きい年度末は、わんぱく会の本質が最も表れる時期。喜びも大変さも全力で受け止める、それがわんぱく会らしさだと思います。

### ● これからの期待

地域に根差した親子への支援を継続しながら、事業所の増加や少子化などの厳しい現状を見極め、新たな切り口の支援方法を模索していきたいと考えています。時代の変化に柔軟に対応しつつ、わんぱく会が大切にしてきた価値観を守り続けることが重要だと思います。また、若い力もベテランの力も上手く融合できる職場作りを進めていきたいです。それぞれの経験や視点を活かし合い、互いに学び合える環境を整えることで、より質の高い支援が提供できると信じています。これからもスタッフ一人ひとりが誠実に、全力でこどもたちと家族に向き合える組織であり続けたいと思います。



家以外の居場所が欲しくて。

「療育のお手伝い&事務」

という言葉との出会いから

12年以上の歩みが始まった。

柴 雅世さん

## ● わんぱく会との出会い

結婚後、子育てと引越しが続き、仕事をする余裕はありませんでした。浦安在住が2度目で生活がすぐに落ち着き、こどもたちも成長し、少し手が離れたと感じた瞬間がありました。それと同時に私には、家以外の居場所が無いことに気づきました。私にできることはないかな？その思いからハローワークを訪ね、パソコンに向き合い、「療育のお手伝い&事務」という言葉が目にとまり、連絡させていただいたことがご縁の始まりです。面接では、事務でパソコン操作を求められるなら全くできません、とはっきりお伝えしたことも覚えています。求人情報との出会いから、わんぱく会での12年以上の歩みが始まりました。

## ● 特に印象に残っているエピソード

療育を担当していた時、お母さんの悩みを聞いても何もできない辛さがありました。ひたすら聞かしかい辛さ。でもそれを毎週繰り返すことで、お母さんと信頼関係ができてきました。「療育に連れてくることも辛かった。だけど一生懸命こどもと向き合ってくださいの姿に元気をもらえた」「かわいいと思えなかったけれど、今はとてもかわいい」など、一生懸命に向き合うことで返していただいた言葉の数々が、私の財産になっています。

## ● わんぱく会でやってみたいこと

継続は力なり！色々なことがあってもやり続けることが大切だと思います。15年という節目を迎え、これまでここに携わったすべての方々、スタッフも利用者も、みんなに案内を送ってみたいと思います。わんぱく会が築いてきたつながりは、かけがえのない財産です。これからも、こどもたちと家族に寄り添い、一人ひとりの成長を見守り続ける場所であってほしいと願っています。何かできることがあれば、私もお手伝いします。これからもわんぱく会が、多くの家族にとって大切な居場所であり続けることを期待しています。



# MESSAGE

この度、発達わんぱく会は設立15周年を迎えることができました。この節目を迎えられたのは、ひとえに、これまで関わってくださったすべての皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

2010年、「こころとことばの教室こっこ」の立ち上げ準備を始めた当初は、手探りの連続でした。発達障害のある子どもたちに、どのような支援が必要なのか。保護者の方々は何を求めているのか。地域の中でどう連携していけばいいのか。分からないことばかりでしたが、目の前の子どもたち一人ひとりと真摯に向き合い、保護者の皆様と一緒に考え、試行錯誤を重ねてきました。

私たちが目指しているのは、「すべての子どもが、発達障害を持って生まれても、自立したその人らしい大人になって、豊かな人生を送れる社会」です。そのために、発達障害のある子どもたちが、コミュニケーションの力を身につけ、長所を伸ばし、地域の中で自分らしく生きていけるよう、家族、地域、行政のみんなで支援する。この理念を掲げ、一歩ずつ活動を続けてきました。

この15年間で、2,000人を超える子どもたちが「こっこ」に通っていただきました。一人ひとりの成長を間近で見守り、保護者の皆様と喜びを分かち合えたことは、私たちにとってかけがえのない財産です。子どもたちの笑顔、「できた!」という瞬間の輝く表情、そして保護者の皆様の穏やかで優しい表情。それらすべてが、私たちの原動力となっています。

また、寄付や会員としてご支援くださっている皆様には、深く感謝申し上げます。皆様の温かいご支援があったからこそ、私たちは安定した運営を続け、新しい挑戦にも踏み出すことができました。一人ひとりのご支援が、子どもたちの笑顔に、家族の安心につながっています。

地域の保育園・幼稚園の先生方、行政の皆様とも、長年にわたり協働してまいりました。巡回支援事業を通じて、園での子どもたちの様子を一緒に見守り、より良い関わり方を考える時間は、私たちにとっても多くの学びとなっています。行政の皆様には、制度面でのサポートや連携の場づくりにご尽力いただき、地域全体で子どもたちを支える体制が少しずつ整ってきました。

全国の事業所の皆様とのつながりも、かけがえのないものです。開設支援や運営コンサルティングを通じて、志を同じくする仲間が全国に広がり、共に学び合い、高め合える関係が築けたことを誇りに思います。皆様との協働があったからこそ、私たちは活動を続け、広げていくことができました。

そして、日々子どもたちと向き合い、家族に寄り添い続けてくれているスタッフのみんなにも心から感謝しています。彼らの献身的な努力があってこそ、今日の発達わんぱく会があります。

近年は、新たな挑戦も始まっています。今年からはベトナムとの協業を通じて、発達支援の輪を海外にも広げる取り組みを進めています。日本で培ってきた経験やノウハウを、国境を越えて共有し、より多くの子どもとその家族に笑顔を届けたい。そんな思いで、一歩を踏み出しました。

15年という節目を迎え、改めて私たちの原点を見つめ直しています。発達障害のある子どもたちが、のびのびとわんぱくに成長できる社会。それは、まだ実現できていません。しかし、関わってくださったすべての皆様と力を合わせて、理想の社会を目指し続けます。これからも、子どもたち一人ひとりに寄り添い、家族を支え、地域とともに歩んでいきます。

今後とも、発達わんぱく会へのご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



認定NPO法人発達わんぱく会理事長 小田知宏

# REPORT

2024年度は、「聴くからはじめる 心理的安全性」を全スタッフのテーマとして取り組みました。まずは理事会から。新しい理事を迎え、互いの考えを率直に聴き合う中で、自由闊達な議論と新しい挑戦が生まれました。聴く姿勢を大切に作る文化づくりが、組織の成長の土台になった一年でした。

## 2024年度の主なトピックス

- 認定NPO法人としての更新が承認され信頼性を強化
- ベトナムの大学と連携し発達支援の国際交流を拡大
- 企業講演を通じ地域に発達支援の理解を広げる
- AI動画解析を運営コンサルティングに活用
- 江戸川区児童発達支援連絡会の事務局として地域ネットワークを強化
- 理事体制の変更



新理事 / 若林智子氏



新理事 / 馬場秀樹氏

## 2024年度の実績

2024年度、発達わんぱく会は4教室で計170名の児童発達支援と82名の相談支援を行い、早期発見プログラムや開設・運営支援、地域活動を組み合わせることで、地域全体の発達支援力を高める「インフラ」としての役割を果たしました。

### スタッフ体制



52名

臨床心理士・保育士・言語聴覚士・公認心理師・作業療法士  
音楽療法士・社会福祉士・幼稚園教諭・特別支援学校教諭  
臨床発達心理士・相談支援専門員・看護師 ほか

### 児童発達支援 (個別/グループ/音と色)



計170人

東野校: 利用児人数38名、浦安駅前校: 利用児人数46名  
葛西校: 利用児人数44名、西葛西校: 利用児人数42名

### 早期発見 (こどものひろば)



### 相談支援



利用者数82人

### 早期発見 (ふれあいようちえん)



74日 107組 223人

東野校 / 開催日数: 47日・参加親子数: 72組(150人)  
浦安駅前校 / 開催日数: 27日・参加親子数: 35組(73人)

### 開設・運営支援



16件

2024年度中に契約が存在した件数

### 地域活動支援



5件

子育て応援メッセ2024・NPOウイーク・まちづくりフェスタwith2024  
若者のために夏休みボランティア・浦安市つなぐプロジェクト

個人寄付者数

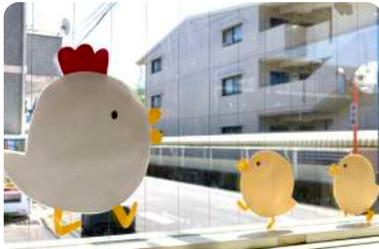
105名

法人寄付者数

5件

丸和バイオケミカル株式会社様・日本小顔矯正認定協会様  
他3社様

## ご寄付の使い道



### こどものひろば、 ふれあいようちえん継続開催

発達やことばに不安を感じる親子が、気軽に相談・遊びに来られる「入り口」としての場づくりに活用します。  
運営費、教材費などに充て、安心して通い続けられる環境を守ります。



### 無料相談窓口の開放

発達に関する無料の電話相談窓口を開放しています。お子さんの発達に年間200件以上のご相談を受けています。



### スタッフ研修の充実

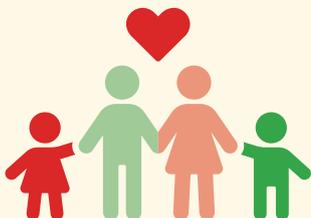
最新の知見や支援方法を学ぶ研修・勉強会の実施に活用します。スタッフ一人ひとりの専門性を高めることで、子どもと家族により良い支援を届けられる体制づくりにつながります。

## 寄付者の声

2024年度に発達わんぱく会にご寄付いただいた方の声をご紹介します。

「こどものひろば」や「ふれあいようちえん」などの早期発見の取り組みは、「発達障がい」という言葉へのハードルから、自分から積極的にアクセスしにくいご家庭にとって、とても大切な入口だと感じています。誰もが何らかの特性を持ち、その子に合った関わり方があることは、療育の専門家と直接対話する中でこそ腹落ちする部分が大きく、そうした貴重な機会を提供している点を応援したいと思い寄付を続けています。

わんぱく会さんと関わる中で、発達に関する情報に自分から触れるようになり、保育園での面談などでも「子どもの特性を理解し、それに合わせてコミュニケーションすること」の大きな効果を実感しています。共働きで限られた時間の中でも、子どもが愛情を感じられるよう、その子らしさを理解した関わりを実践していきたい、そんな思いを後押ししてくれる存在として、これからも応援していきたいです。



全てのこどもが、  
その子らしく  
生きられる社会を  
つくるために。



## 発達わんぱく会では、皆様からの ご寄付・支援を受け付けております。

発達わんぱく会は、発達障害の早期発見・早期療育で、こどもがその子らしく生きられる社会を目指しています。それを実現するためには、皆さまのご支援が必要です。こどもたちの好き・得意を活かして、その子らしく生きられる社会を私たちと共につくりませんか？

発達わんぱく会は、「認定NPO法人」です。

当団体へのご寄付は、寄付金控除等の税制上の優遇措置を受けることができます。

認定NPO法人への寄付は、所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれに定められている条件を満たすことで、その一部が税金から控除されます。

### ① 税額控除方式

個人による寄付の税額控除の場合

$(\text{寄附金の額の合計額} - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{税額控除額}$

例 / 3,000円の寄付の場合

$3,000\text{円} - 2,000\text{円} = 1,000\text{円}$

$1,000\text{円} \times 40\% = 400\text{円}$

### ② 所得控除方式

個人による寄付の所得控除の場合

$\text{税額控除対象寄附総額} - 2,000\text{円} = \text{所得控除額}$

例 / 100,000円の寄付の場合(所得税20%を想定)

$100,000\text{円} - 2,000\text{円} = 98,000\text{円}$

$98,000\text{円} \times 20\% = 19,600\text{円}$

● 税額控除対象寄附総額: 税額控除対象法人への寄附金の合計額

● 所得税の軽減額は、所得控除額×所得税率となります。

● 税制優遇を受けるためには確定申告の際、毎年2月初旬にお送りする「寄付領収書」が必要となります。詳しくは内閣府ホームページをご覧ください。  
● クレジットカード利用による領収書上の寄付受領日はクレジットカードの決済日になります。

● ご寄付を決済した日付の約2ヶ月後が当法人への入金日(=領収日)となります。

# 寄付・支援の種類

継続的なご支援

**500円**~/月

各種クレジットカードでのご寄付が可能です

その都度のご支援

**500円**~

各種クレジットカード、銀行振り込みでのご寄付が可能です

遺贈寄付や  
物品寄付

直接的な寄付以外にも、様々なご支援を受け付けております。詳しくはHPをご覧ください。

## 皆様からのご支援によりできること



### 発達相談が可能な無料の遊び場

無料の遊び場「こどものひろば」の開放で、年間200名相当の親子が発達の相談を受けています。「ふれあいようちえん」では年間10組程度の親子が月2回集団活動を無料(教材費別)で体験しています。

10,000円のご寄付で、12人の子どもが、「こどものひろば」に参加できます。



### ベトナム事業の実施

ベトナム現地のパートナーと協働して、障害児支援施設の開設と運営の支援を行っています。初回は日本からベトナムに出張して対面で研修を実施し、その後はオンラインでフォローアップを継続します。

30万円のご寄付で、ベトナムの障害児支援施設1か所の開設・運営支援を実施できます。



### 地域とつながる活動

地域のお子さん向けの活動に、発達の相談窓口として参加させて頂いています。近年活動範囲が広がっており、皆さまとお会いする日も近いかもしれません。

10,000円のご寄付で、地域とつながる活動として開催されるイベントに12組の親子を招待できます。

ご支援いただいた方には、わんぱく会の活動報告をさせていただきます。



### 活動報告書の送付(年1回)

年に一回、法人の活動に関する報告書をご送付致します。



### 年次報告会などイベントへのご招待

コロナ禍以前は教室にお招きして年次報告会を開催しておりました。直近では活動の報告や社員インタビュー動画等をYoutubeを通じて配信させて頂いております。

### 直接お振込の場合

下記の口座までお振込ください

銀行名 / 三菱UFJ銀行 浦安支店  
口座番号 / 普通口座 0127620  
宛先 / NPO法人発達わんぱく会

### クレジットカードの場合

右記QRコードより、指定の金額寄付の頻度を選択の上、決済をお願いいたします。

<https://congrant.com/project/htwp/6612/form/step1>





認定NPO法人

発達わんぱく会

### 認定NPO法人 発達わんぱく会設立15周年記念冊子

発行	認定NPO法人 発達わんぱく会
発行日	2025年12月21日
メンバー	黒木秀子(医療法人社団嗣業の会) 清水啓(丸和バイオケミカル株式会社) 久保島貴宏、田中寿子、安岡加菜、小田樹、小田知宏
企画・デザイン	大類日和(株式会社すくらむ)

### 認定NPO法人 発達わんぱく会

設立	2010年12月9日
法人事務所	〒279-0004 千葉県浦安市猫実 4-6-26 ミナモトビル 401
連絡先	pr@hwanpaku.org

